



現代システム科学域
Sustainable System Sciences

大阪府立大学現代システム科学域・堺市連携講座

平成
29年度

連続
セミナー

持続可能な現代社会の創造に向けて

大阪府立大学現代システム科学域では、現代社会における様々な問題を多面的に捉え、持続可能な社会の構築に向け、課題解決できる人材の育成を目指しています。この教育内容は、堺エコロジー大学が目指す「持続可能な環境共生都市の構築」に向けた環境教育・環境学習の理念と一致することから、堺市との連携により連続セミナーを行います。本学現代システム科学域の教員を講師陣とし、「持続可能な現代社会の創造に向けて」という共通テーマで連続セミナー（全6回）を開催し、大阪府立大学が持つ知識、技能を広く還元したいと思います。

平成29年度 連続セミナー スケジュール

第1回 5月13日(土)

「大正デモクラシー」を知っていますか



住友 陽文
(現代システム科学域
環境システム学類 教授)

第2回 7月15日(土)

データからみる世界と日本の
経済・社会の本当の姿



吉田 素教
(現代システム科学域
マネジメント学類 教授)

第3回 9月30日(土)

データマイニングにおける
ビジネス応用



森田 裕之
(現代システム科学域
知識情報システム学類 教授)

第4回 11月11日(土)

多様性を育む野生の知

—エチオピア農牧民社会にみる栽培植物の品種多様化と生存戦略—



宮脇 幸生
(現代システム科学域
環境システム学類 教授)

第5回 1月27日(土)

持続可能な社会の創造に
向けての教育の取り組み

—世界の動きと日本・ドイツの取り組み—



若林 身歌
(高等教育推進機構 准教授)

第6回 2月17日(土)

計量経済学からはじまる
データ・サイエンス



鹿野 繁樹
(現代システム科学域
マネジメント学類 准教授)

日時：平成29年5月13日(土)～平成30年2月17日(土) 14:00～15:30(受付 13:30～)

場所：I-siteなんば(南海なんば第1ビル2階)大阪市浪速区敷津東2-1-41

※駐車場・駐輪場はありません。 ※建物北側(Zeppなんば側)の大阪府立大学専用入口からお入りください。



●定員：100名(応募者多数の場合は抽選)

●対象：どなたでも

●受講料：無料

●申込方法：「FAX」、「郵送」または「Eメール」のいずれかで、「連続セミナー一括」と明記し、①氏名(ふりがな)・年齢 ②郵便番号・住所 ③電話番号(日中連絡のつくもの)をご記入の上、5月8日(月)必着で下記宛先までお申込ください。

※第1回～第6回まで全回一括のお申込となります。

※1回ごとのお申込につきましては、順次ホームページやチラシで案内しますので、都度お申込ください。

※携帯メールでの受付はしていません。

※定員を超えた場合のみ、ご参加いただけない旨の連絡をいたします。連絡がない場合はご参加いただけます。

●申込先：〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 現代システム科学域支援室「連続セミナー」係

E-mail：3s-sem@ml.osakafu-u.ac.jp

TEL：072-254-7361(ダイヤルイン) FAX：072-254-9925

※お申込の際の個人情報、応募後の問合せ連絡、統計資料作成、並びに本学公開講座の案内以外は一切使用いたしません。

- 南海電鉄「難波駅(中央出口)」より、徒歩約12分
- 地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」より、徒歩約15分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大國町駅(1号出口)」より、徒歩約7分
- 地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」より、徒歩約7分



連続セミナー（全6回）講演概要・講師紹介

第1回

「大正デモクラシー」を知っていますか

5月13日（土）14:00～15:30

しばしば私たちは、現代に戦争の影や言論統制の片鱗を見ると、「戦前のような」とそれを喩えてしまいます。実際の「戦前」は必ずしも軍国主義一色に染まっていますし、自由や民主主義思想もありました。ちょうどそれは「大正」の時代に相当します。「戦前」というイメージからは、かけ離れており、影は薄いのですが、その後の忌まわしい戦争の時代に先んじた時代であるということを考えると、この「大正」期の歴史を考えるのはとても重要なことです。そしてその時代と現代とがよく似ているとすれば……。

住友陽文（現代システム科学域 環境システム学類 教授）

1963年大阪府生まれ。1992年関西大学大学院博士後期課程単位取得退学、1992年から1994年まで日本学術振興会特別研究員。1994年から愛知教育大学教員。1999年大阪府立大学教員となり、現職に至る。主な著書：『皇国日本のデモクラシー—個人創造の思想史—』（有志舎）（単著）2011年、『立憲主義の「危機」とは何か』（すずさわ書店）（編共著）2015年、『核の世紀—日本原子力開発史—』（東京堂出版）（編共著）2016年。

第3回

データマイニングにおけるビジネス応用

9月30日（土）14:00～15:30

近年、ビッグデータという言葉が盛んに使われ、様々な応用分野でビッグデータを活用する動きが活発になっています。その中でも、企業活動におけるビッグデータの活用は焦点を当て、なぜビジネス分野における活用が重要であるか、またなぜそれが難しいのかについてお話すると共に、どのように活用できるのかをお話します。

森田裕之（現代システム科学域 知識情報システム学類 教授）

1997年3月神戸商科大学大学院経営学研究科経営情報科学専攻博士課程単位取得修了、博士（経営情報科学）。1997年4月大阪府立大学経済学部経営学専攻講師を経て、現職に至る。主な著書：『多目的組合最適化問題とメタ・ヒューリスティクス』（大阪府立大学経済研究叢書第93冊）2001年。

第5回

持続可能な社会の創造に向けての教育の取り組み—世界の動きと日本・ドイツの取り組み—

1月27日（土）14:00～15:30

持続可能な社会の創造という課題に、教育はこれまでどのように取り組んできたのでしょうか？各国では今日どのような取り組みがなされているのでしょうか？このセミナーでは、持続可能な社会の創造に向けての教育の取り組みについてお話します。世界の動きから歴史的展開を紐解くとともに、日本とドイツにおける様々な事例を紹介することを通して、皆さんと一緒に「持続可能な開発／発展のための教育（Education for Sustainable Development、通称ESD）」の可能性と課題について考え、実践の糸口を探ってみたいと思います。

若林身歌（高等教育推進機構 准教授）

2000年京都大学大学院教育学研究科修士課程修了。2005年京都大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。同年4月から山形大学教職実践センター講師を経て、2009年4月から准教授。2010年10月から現職の大阪府立大学高等教育推進機構准教授となる。主な著書：『総合的学習のカリキュラム創造—教育課程研究入門』（ミネルヴァ書房）（天野正輝編著）1999年、『時代を拓いた教師たち—戦後教育実践からのメッセージ』（日本標準）（田中耕治編著）2005年。

第2回

データからみる世界と日本の経済・社会の本当の姿

7月15日（土）14:00～15:30

日本人が苦手とする傾向が強い「大局的視点」から、世界経済、日本経済、日本財政、さらに世界の各民族が持つ価値観などに関する本当の姿をデータに基づき説明します。「日本は赤字国なのか？」「日本は借金大国なのか？」「日本は大きな政府の国なのか？」「日本で産み出された付加価値（所得）は社会のどういった分野に使われているのか？」「日本社会は本当に他者への思いやりを持った社会なのか？」「世界と日本の社会経済が今後目指すべき姿は？」といった問題を、世界各国との比較の中で、皆さんと一緒に考えたいと思います。

吉田素教（現代システム科学域 マネジメント学類 教授）

1969年奈良県生まれ。大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程中退、博士（経済学）。1992年から1998年まで大阪府庁勤務。2002年大阪府立大学経済学部助手。2005年同学部専任講師、2008年同学部准教授を経て、2017年から現職に至る。主な著書：『自治体歳入配分行動の政策評価』（中央経済社）（単著）2007年、『地方財政改革の検証』（清文社）（共著）2017年（予定）。

第4回

多様性を育む野生の知—エチオピア農牧民社会にみる栽培植物の品種多様化と生存戦略—

11月11日（土）14:00～15:30

エチオピア西南部は、アフリカの中で最も伝統的な暮らしが残っている地域だと言われています。人口6000人ほどのクシ系農牧民ホールは、ウシ、ヤギ、ヒツジの放牧と、河川の氾濫を利用した農耕に依存して生きています。彼らが栽培するのは、モロコシという作物ですが、1人で十数品種、集落全体では100品種を超えるモロコシを栽培しています。なぜそのような多様な品種を栽培するのでしょうか。どのようにして多様な品種を持つに至ったのでしょうか。品種多様化のメカニズムを分析すると、彼らが過酷な環境の中で、いかに自然を細やかに認識し、それに巧みに適応しているのかが明らかになります。

宮脇幸生（現代システム科学域 環境システム学類 教授）

1958年生まれ。1982年京都大学文学部卒業。1984年京都大学大学院文学研究科修士課程修了。1984年大阪府立大学総合科学部助手を経て、2012年から現職に至る。主な著書：『辺境の想像力—エチオピア国家に抗する少数民族ホール』（世界思想社）（単著）2006年、『講座世界の先住民民族—ファースト・ピープルの現在05 サハラ以南アフリカ』（明石書店）（編著）2008年、『社会化される生態資源—エチオピア 絶え間なき再生』（京都大学学術出版会）（共著）2005年、『ジェンダー人類学を読む』（世界思想社）（共著）2007年、『せめぎあう宗教と国家—エチオピア 神々の相克と共生』（風響社）（共著）2014年。

第6回

計量経済学からはじまるデータ・サイエンス

2月17日（土）14:00～15:30

近年、データ分析と統計的エビデンスに基づく意思決定の重要性が、多くの実務・学術分野で認識され始めています。その結果、各分野の専門知識と高度な分析能力を合わせ持つ「データ・サイエンティスト」へのニーズが、急速に高まっています。一方、文理融合型の学問である経済学は、古くからデータ分析を重視し、独自の分析体系として「計量経済学」を擁してきました。このセミナーでは、計量経済学、特にプログラム評価と離散選択モデルの応用が、社会やビジネスのいかなる問題を解決してきたかを概観いたします。そして、経済学教育を通じたデータ・サイエンティスト人材養成の可能性を、先進諸国の事例を参考にしながら考えていきます。

鹿野繁樹（現代システム科学域 マネジメント学類 准教授）

1975年宮城県生まれ。筑波大学大学院社会学研究科（現 システム情報工学研究科）修了単位取得・退学、博士（社会経済）。2004年から大阪府立大学 経済学部講師、2007年同学部准教授を経て、2012年から現職に至る。主な著書：『新しい計量経済学』（日本評論社）（単著）2015年。

平成29年度 連続セミナー 「第1回～第6回まで全回一括」FAX 申込書

※は必須記入項目

※お名前	ふりがな	※年齢	
※住所	ふりがな 〒		
※TEL (日中連絡のつくもの)		FAX	

申込締切 平成29年5月8日（月）必着

FAX送信番号：072-254-9925